



若い世代とどうつきあっていくか。
そこに団をまとめる秘けつがある。



あきら
● 近藤 啓さん（御幸本町・64歳）

平成15年度消防庁長官定例表彰永年勤続功労章受賞。
消防分団員としての受賞は安城市で初。

今年の3月で、消防団員を始めて32年になります。昭和47年当時、町内会から依頼があったので、快く引き受けました。その後、2度にわたって、分団長を務めさせていただき、現在に至っています。わたしが分団長として所属している南明分団は、市内で有数の大きな分団で、人数も多く、年齢層も幅広いです。若いころは、人についていくだけでよかったのですが、分団長になり、指揮を執るようになってからは、やはり、それなりの苦労がありましたね。特に、今の若い人たちは、頭ごなしに物を言ってもついて

きてくれません。ましてや、ただでさえ、なり手の少ない消防団ですから、彼らの言い分をしっかりと聞き、大変さをわかつたうえで、話をしないと、反発されるだけです。実際、みんな仕事や家庭を持ちながら、時間をやりくりしてこの活動に参加していますので、当然、心のどこかに、不満を抱えているはず。そういった部分を理解してあげないと、こういった組織を維持していくのは難しいですね。幸いなことに、南明分団は素晴らしいメンバーに恵まれたおかげで、分団長としても、ここまで長くやっていくことができます。



市消防団副団長
榊原 亘さん（宇頭茶屋町）

人数も多く、年齢層も幅広い南明分団の大所帯をまとめることができるのは、近藤さんの人柄と情熱の賜物です。

きました。市民の皆さんへは、ぜひ身の回りの整とんをして、火を出さないよう注意していただき、わたしたちの仕事が少しでも減るよう、お願いします。もちろん、

万が一、火事が発生したら、団員一同、一秒でも早く現場に駆けつけて、消防署の皆さんとともに火を消すことに全力を尽くします。

